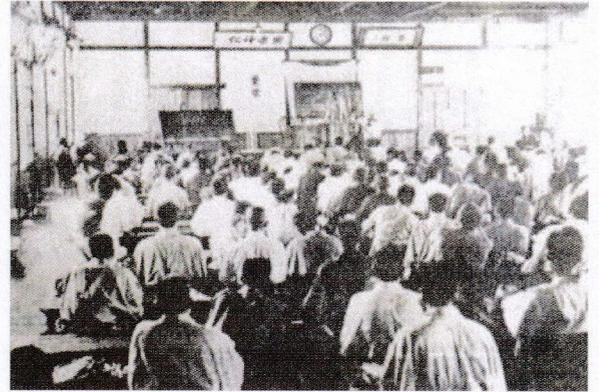


## 戦前の文化活動

—夏季大学や巡回講話—

大正 14 (1925) 年 8 月 17 日～ 21 日、赤湯小学校で開催された夏期大学。聴衆 600 人を超す盛況。講師と演題は、東京帝国大学教授 佐藤寛次「農村問題」、同大学教授 伊東忠太「現代の芸術」、同大学助教授 保科孝一「国字問題」、慶應義塾大学教授 宮島幹之助「農村の衛生」、など有為会の会員を中心に実に充実した講師陣でした。



会場風景

郷土に名士を迎えての講演会等の開催は、明治 25 (1892) 年の米沢での学術大講演会から始まり、戦前は断続的に高畠・赤湯・宮内・長井・小松・米沢で実施されたと記録されています。これらの文化面の取り組みは、育英事業とともに、今日に引き継がれている有為会の活動の主な柱のひとつです。

## 現在もつづく、好評の文化講演会

戦後に始まった文化講演会は、毎年、定時総会に併せて開催され、会の恒例行事になっています。



渡辺淳一氏「栄光と悲惨」  
杉本苑子氏「戦国女房の条件」

昭和 55 (1980) 年開催



阿刀田高氏「小説家の脳味噌」

昭和 57 (1982) 年開催



鈴木由紀子氏「山本覚馬・八重兄弟」

平成 10 (1998) 年開催



第 10 代会長 千葉源蔵 (1915—1988)

米沢出身。米沢商業高等学校から法政大学経済学部卒。文藝春秋社に入社、社長、会長、名誉会長を歴任する。日本雑誌協会理事長なども引き受け、長年にわたり、有為会の看板行事となった文藝春秋社共催の文化講演会の開催に尽力した。